

4-9

ケアマネジメントの課題を解く大切なキーワード

利用者の真のニーズをサービスに反映させるには

ケアマネジメント

相談員の役割

平成19年度生活相談員スペシャリスト養成研修会Bグループ

東京敬寿園 生活相談員 羽場 久美子

高橋 和佳、伊藤 心み、大竹 倫子

東京都世田谷区上祖師谷7-1-1

関谷 和久、深澤 みゆき

TEL 03-5313-0008

E-mail: t-keijuen2@r4.dion.ne.jp

FAX 03-3308-0303

URL: <http://www.keijuen.or.jp/tokyo/about.html>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

当グループは東社協の高齢者施設福祉部会、生活相談員研修委員会が、変化に対応していく人材育成を目的とする「生活相談員スペシャリスト養成研修会」で高い専門性や技術を身につけるために研修を行っている生活相談員6名のグループです。

〈取り組んだ課題〉

- ケアマネジメントの様々な過程における、生活相談員が担う専門性(役割)についての研究。
- 様々な役割を施設内外で担うことが多い生活相談員であるが、そのような状況故に、言葉通りの「何でも屋」となりがちである。しかし、ケアマネジメントの過程において、生活相談員がその専門性を活かした役割を担うことにより、“施設”ケアマネジメントの課題を浮き彫りにし、利用者の真のニーズを掴み、ケアサービスに反映していくことが出来る。

〈具体的な取り組み〉

- ケアマネジメントの過程における、生活相談員の役割に関する現状や認識・問題等を把握するため、本研修参加者に対するアンケート調査を実施。
- 結果、大多数はケアマネジメントの過程において生活相談が専門性を持つことを認識しながらも、現状の役割について満足していないこと、また必ずしも全ての過程で生活相談員が関わりをもっているわけではないことが明らかになる。
- それは専門性とは何かが明らかとなっていないこと、そして専門性を具体的に発揮できていないことに起因すると考えられる。
- まずはケアマネジメントの過程における生活相談員の専門性を明確にし、その上で全ての過程において生活相談員がチームケアを構成する一員として関わり、その専門性を発揮することが必要である。
- 上記アンケートの結果等から、ケアマネジメントの過程における生活相談員の専門性を考えるキーワードとして、情報収集・情報提供・調整・チェック・説明の5つを導き出す。

- 導き出したキーワードを、アセスメント・プラン作成・カンファレンス・実践・評価の各段階に当てはめ、それぞれの具体的な展開方法を提示することができた。他専門職の役割と重複する部分については、生活相談員としての専門的な関わりが必要である視点に基づいている。
- 上記を具体的なケースに当てはめ、実践する。

〈活動の成果と評価〉

- 具体的な事例に対して実践した結果
 - ・生活相談員として関わっていない部分について、課題が浮き彫りとなった。
 - ・全ての過程において、「生活」という視点を持つ生活相談員が関わることにより、利用者の本当のニーズをケア、サービスに反映させることが出来る
- キーワード及び具体的な展開方法を明らかにすることで、実際にケアマネジメントの各過程で関わりを持ち、施設内の他職種からも生活相談員が持つ専門性について認識を得られると同時に、他職種に対して、明確に自らの持つ役割について説明が出来る。
- 生活相談員としてケアマネジメントに関わることにより、“施設”ケアマネジメントの課題が把握できた。

〈今後の課題〉

生活相談員のケアマネジメントにおける専門性(役割)が明確になることで、“施設”ケアマネジメントの課題、障害が浮き彫りになった。今後、各専門職も含め、その課題、障害を乗り越え、解決に導く具体的な方策を研究する。